

戦略6 教育・人づくり戦略			
目指す姿4 豊かな心と健やかな体の育成			
幹事部局名	教育庁	担当課名	特別支援教育課
評価者	教育委員会	評価確定日	令和7年7月31日

公共の精神や他者を思いやる気持ち、感謝する心など豊かな心と生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力の育成を目指します。

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性①】 自分にはよいところがあると思っている 児童生徒の割合(小6、中3)(%) 出典:文部科学省「全国学力・学習状況調査」	目標			86.0	87.0	88.0	89.0	98.5%	3	
		実績	86.0	—	84.7	86.0	86.7				
		達成率			98.5%	98.9%	98.5%				
②	【施策の方向性①】 低年齢化に対応したインターネット環境整備に関 する講座を実施した市町村数(累積)(市町村) 出典:県教育庁調べ	目標			13	17	21	25	85.7%	2	
		実績	4	7	12	16	18				
		達成率			92.3%	94.1%	85.7%				
③	【施策の方向性②】 特別支援学校小中学部との居住地校 交流を実施した小・中学校の割合(%) 出典:県教育庁調べ	目標			42.0	44.0	46.0	48.0	109.8%	4	
		実績	38.9	38.7	45.2	47.3	50.5				
		達成率			107.6%	107.5%	109.8%				
④	【施策の方向性③】 運動やスポーツをすることが好きな 児童生徒の割合(小5、中2)(%) 出典:スポーツ庁「全国体力・運動能力、運 動習慣等調査」	目標			65.5	66.0	66.5	67.0	95.3%	3	
		実績	65.9	—	63.0	62.9	63.4				
		達成率			96.2%	95.3%	95.3%				

定量的評価結果	計算式
3.00 (c 相当)	4 点 × 1 個 = 4 点 1 点 × 0 個 = 0 点
	3 点 × 2 個 = 6 点 0 点 × 0 個 = 0 点
	2 点 × 1 個 = 2 点
	合計 12 点 ÷ 4 個 (判明済み指標) = 3.00

a相当:平均点が3.6点以上 b相当:平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当:平均点が2.8点以上3.2点未満
d相当:平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当:平均点が2.4点未満

2－3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 規範意識と自他を尊重する心を育む教育の推進】	
・ 秋田県道徳教育推進協議会を開催し、学校と家庭・地域との連携や学校教育における道徳教育のあり方について協議し提言をまとめたほか、「命の大切さ」について認識を深めるため「いのちの教育あったかエリア事業」を実施し、その取組を県民に発信した。	
・ 秋田県いじめ問題対策連絡協議会を開催し、いじめの早期発見、解決に向けた取組について協議するなど、いじめの組織的対応について関係機関と連携を図った。	
・ 幼稚園や認定こども園の総会や市町村教育委員会への訪問等で、低年齢化に対応したインターネット健全利用啓発講座について周知する機会を設けた。これにより、低年齢化対応講座を10市町で計14回実施することができ、累積市町村数は18市町村<前年度＋2>となった。	
【施策の方向性② インクルーシブ教育システムの推進】	
・ 特別支援学校との交流及び共同学習を行った学校（園）は、77校<＋8校>で147回<＋11回>と増加した。特別支援学校は、地域の団体等との交流活動として、地域が主催する行事での活動や自校が主催する地域との活動、地域貢献活動等を継続しており、回数も増加した（766回<＋94回>）。	
【施策の方向性③ 学校における体育活動の充実と健康教育の推進】	
・ 運動やスポーツの専門性を有する地域の人材等を小・中学校（18校）に派遣し教員の指導力の向上を図ったことや、学校の教育活動全体を通じて運動の楽しさや喜びを伝えることなどにより、運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合（小5、中2）は、全国トップクラス（全国平均値59.1%、県平均値63.4%）を維持している。	
・ 複雑化・多様化している現代的健康課題の解決に向けて、医療関係者等と連携し、がん教室（16校）や性教育講座（67校）を実施した。また、県内3地区をモデル地区とし、学校給食における地場産物活用促進のため、学校と生産者との連携体制の構築、全県の研修会での実践発表等により、地域の実情に応じた推進体制づくりをサポートした。	

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
C	成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.00で「c相当」であることから、総合評価は「c」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 ・

4 県民意識調査の結果

質問文		学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな心や健やかな体が育まれている。				
調査年度		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	満足度					
	肯定的意見		15.4%	14.8%	15.5%	+0.7
		十分 (5点)	1.8%	1.4%	2.5%	+1.1
		おおむね十分 (4点)	13.6%	13.4%	13.0%	△0.4
	ふつう (3点)		51.6%	46.0%	45.4%	△0.6
	否定的意見		13.8%	19.4%	17.4%	△2.0
		やや不十分 (2点)	9.2%	12.4%	11.2%	△1.2
		不十分 (1点)	4.6%	7.0%	6.2%	△0.8
	わからない・無回答		19.3%	19.9%	21.7%	+1.8
	平均点		2.99	2.87	2.93	+0.06

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 近年、スクールソーシャルワーカーへの相談要請が増加し、複雑化・多様化した生徒指導上の諸課題に対して、様々な環境に働き掛けた支援を行うための時間等の確保に苦慮している。 ○ インターネット利用のリスクへの意識や講座開催の必要性に対する認識に、市町村間で温度差があり、積極的に取り組むところと、関心が低いところに分かれる。対象となる保護者や教職員等の多忙さや日程・会場調整の困難さから、講座の設定が容易ではないケースがある。	○ スクールソーシャルワーカーの配置箇所を増やすほか、各配置箇所における配置時数の拡充を検討する。 ○ 未実施市町村をリストアップし、個別訪問や電話連絡等により講座実施を働きかける。保護者会や学校行事と連動した「時間短縮版講座」の提案により、実施のハードルを下げる。
②	○ 特別支援学校との居住地校交流を実施した小・中学校数は全体の半数以上となっており、学校間交流としての交流及び共同学習の実施校も増加している。一方、交流及び共同学習に組織的・計画的に取り組むことに課題を感じている小・中学校もある。	○ 交流校双方が交流及び共同学習の意義やねらい等を十分に理解した上で取り組むことができるよう、昨年度作成した「交流及び共同学習にかかるガイド（改訂版）」を活用する。ガイドに掲載した好事例を基に、実施の手順や組織的に取り組むためのポイントの周知を図る。
③	○ 全国調査では、運動に対する好意度が高いものの、体力合計点については、小学校男女及び中学校女子はコロナ禍前の水準に戻っていない。また、スクリーンタイムの増加による運動時間減少への影響や運動離れが懸念される。 ○ 子どもたちを取り巻く環境と生活様式は変化が激しく、最新の知見を基に、生涯にわたって健康に生活できる資質能力を育成する必要がある。	○ 各種研修会を開催するほか、地域との連携により学校における体育・スポーツ環境の整備を進めるとともに、体育学習の充実、望ましい運動習慣の確立や体力向上に向けた支援を行うことで、運動やスポーツが好きで体力の高い児童生徒の育成を目指す。 ○ 関係機関と連携した協議会等（地場産物活用推進連絡協議会、性に関する指導推進のための委員会等）における専門家等からの指導助言を基に、研修会等の充実を図るとともに、各学校等での周知を推進する。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「c」をもって妥当とする。
